



総看だより

第1号

愛知県総合看護専門学校
同窓会会報
2006年8月1日

+

会員の活躍伝えます

同窓会会長 鈴木邦子



総看同窓会だより発刊にあたり、ご挨拶を申し上げます。

同窓会の運営には、学校長先生を始め事務局の先生方の多大なご協力、ご支援を頂き心より感謝申し上げます。総合看護専門学校の卒業生は7590名となり、平成2年に発足した同窓会の会員数も4655名になりました。会員の皆様は各方面で活躍されております。これまで同窓会活動として2年に1回総会・講演会を開催し、会員名簿の作成を行ってまいりました。しかし昨年施行されました個人情報保護法により、会員の皆様への名簿の配布は問題があると考え役員会で検討し、会員名簿の配布は中止することにいたしました。そして名簿の配布に代わる活動として、会報の発行を企画いたしました。平成18年度診療報酬の改定では、質の高い医療の提供が求められ、看護に対する評価が高くなっています。このような時に会報で会員の皆様のご活躍や、学校の現状をお伝えすることは意義のあることと考えます。会報を介して会員間の連携を深めるとともに、同窓会の発展へと役立てていきたいと考えています。会報の発行は初めての経験であり、至らないところが多いとは思いますが、皆様に楽しみして頂けるような会報がお届けできるように頑張りたいと思っています。

同窓会の更なる発展のために会員の皆様には一層のご支援をお願い申し上げます。

+

学校変革も一段落です

学校長 中井加代子



同窓会会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。このたび、同窓会初の会報誌をお届けすることになり、御挨拶を兼ねて本校の最近の変革についてお知らせしたいと思います。

愛知県第三次行革が平成11年度からスタートし、これによって県立看護専門学校の統廃合や課程の変更が進められてきました。本校においては、「保健科」が県内看護系大学における保健師養成の増加に伴い平成13年3月をもって閉科となりました。また、県内准看護師養成の減少により「第四看護科」が平成17年3月をもって閉科、「第二看護科」も平成18年3月をもって閉科となりました。

一方、「第一看護科」については、平成16年度から1学年120名に増員し、総定員360名、9クラスの大型校として継続することになりました。また、平成15年度からは愛知県看護研修センターを付設し、県内看護職員の継続教育にも力を注いでいます。

今年是这样した目まぐるしい変革の時期がようやく終り、少し落ち着いて教育内容を見直し、一層の充実に努めていきたいと考えております。本校の教育状況についてはホームページにも掲載していますので、ぜひ御覧ください。

本校開学当初の5課程が、第一看護科1課程となってしまいましたが、これまでの歴史と伝統を大切に、これからも教職員一同、総合看護専門学校の発展に努力していきたいと思っておりますので、御支援をよろしくお願い申し上げます。そして、同窓会の皆様の益々の御活躍と御健康を心よりお祈り致しております。

役員紹介

会長 鈴木邦子

愛知県立高等看護学院
昭和46年度卒業 第10回生
中日新聞健康保険組合中日
病院の看護部長として、新病院
移転に向けて頑張っています。



副会長 小倉千恵子

愛知県保健婦学院
昭和42年度卒業 第18回生
平成18年3月名古屋市を定年
退職し現在介護福祉士養成の短
期大学に再就職をいたしました。
地域活動と勝手が違い、毎日戸
惑いながら若い学生と接しています。



副会長 加藤宏子

臨床看護学第一科
昭和49年度卒業 第2回生
総合看護学院という校名の時
代でした。母校の後輩と共に今も
愛知県がんセンター中央病院で
看護を続けています。



副会長 伊豫田じゅう

愛知県立高等看護学院
昭和46年度卒業 第10回生
平成16年度から副会長に任命
されましたが、公私とも忙しくて会
長始め役員の方々に迷惑をかけ
ています。微力ながら頑張ります
ので今後ともよろしくお願いします。



卒業生紹介

✚ 来年は台湾で会いませんか？

臨床看護学第三科 昭和50年度卒業 第4回生 山口 洋子
名古屋市医師会看護専門学校



地下鉄を出ると八事の青い空を背景に病院の建物がある。30年前もあずさ寮から実習に通い、緊張のあまり動悸を感じてこの病院を見上げたものだった。そして30年後の今も毎朝緊張して病院を見上げている。今度は看護学校の教員として

実習生を連れて病院を歩いている。卒業時には夢にも思わなかったことである。

卒業後、2回目のクラス会は2005年に、宮崎シーガイアに13名が集まった。大いにはしゃぎ、世のふけるまで卒業後30年余りの人生を語り合った。みんなの

顔はあの興正寺の境内で体育をしたときのように輝いていた。翌日は残暑厳しい青島の海岸を散策し、おいしい魚料理を食べ、温泉につかり宮崎を満喫した旅となった。空港で別れるときは涙、涙だった。

2007年のクラス会は台湾に行くことに決めた。この場を借りて4回生のみんなに伝えたい。まだ連絡先がわからないメンバーもある。ぜひ一緒に台湾へ行こうではないか。連絡を待っている。



✚ パワフルナースへの道

第一看護科 平成14年度卒業 第30回生 宮田 佳織
名古屋第二赤十字病院



私が名古屋第二赤十字病院のICUに勤務してから、3年が経過します。振り返ってみるとあっという間の3年間でした。昔からの夢だった「救急病棟で働くこと」が出来た喜びもつかの間、慣れない環境や仕事

に対するストレス、急性期の患者様を受け持つプレッシャーに負けそうになったこともありました。それでも頑張ることが出来たのは、同期の存在があったからです。ストレス発散のため、飲みに行ったりカラオケに行ったりしました。互いに意見を交わし、様々な考え方がある事を知りました。良きライバルでもある仲間は、私のか

けがえのない存在です。

現在はチームリーダーとして、後輩の指導にあたっています。伝えたい事がうまく伝わらなかったり、後輩の性格を把握できず接し方に困ったりと、人に教えることの難しさを感じています。しかし、忘れかけていた初心に気づかせてもらい、自分の看護を振り返る良い機会にもなっています。急性期の患者様はどうしても治療が最優先になってしまいますが、その中で患者様の訴えを聴き、少しでも苦痛が軽減できないか考えています。まだまだ学ぶ事も多く、いろいろな失敗を繰り返すと思いますが、持ち前の明るさと前向きな性格で乗り切っていく、いつも笑顔の絶えない「パワフルナース」になれるように頑張ります。

✚ 誇りを胸に

第二看護科 平成17年度卒業 第34回生 尾川 美由紀
厚生連渥美病院

2年前の4月、大きな期待と不安を胸に入学しました。第二看護科の学生は年齢も今まで歩んできた道も様々であり、個性の豊かな科でした。私は准看護師の資格を取得し、臨床に出た後にさらなるステップアップを目指し入学をしましたが、この様な個性豊かな環境の中で自分が順応できるのか、勉強や臨地実習を最後まで出来るのか不安だったことを思い出します。

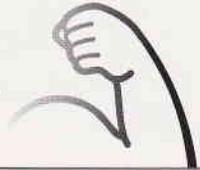
しかし時が経ちクラスの仲間や、先生方と過ごす時間が長くなるにつれて不安はなくなっていきました。苦しい時や辛い時に同じ悩みを抱えるもの同士支え合ったり、時には様々な刺激を受け自分自身を見つめ直し、看護師としての感性を豊かにすることが出来たと、思います。そして先生方はそんな私達をいつも温かく

見守り、大きな壁に突き当たった時など、親身に相談にのって下さいました。

この春、第二看護科は長い歴史に幕を閉じる事となり、淋しい思いでいっぱいです。しかし、在学中に学んだ知識や技術、チームワークの大切さと共に第二看護科の最後の卒業生ということ誇りに思い看護師としての仕事に励んでいきたいと思えます。今まで温かく見守って頂いた先生方、そして第二看護科の歴史を築き上げられた先輩方に深く感謝申し上げます。



みんな頑張ってるよ!



虐待対応の中で保健師として学んだこと

保健科 昭和56年度卒業 第11回生 塩之谷 真弓
衣浦東部保健所

虐待に悩み傷つく親と子に、向き合うことのできた5年間でした。あいち小児保健医療総合センターでは、子育て支援外来(虐待外来)や診療科病棟を設け、虐待に悩む親子への包括的な医療を実施しています。その保健部門で、虐待対応保健師として院内に「虐待ネットワーク委員会」を立ち上げ、ワーカーと共に虐待相談窓口となり、院内や地域の専門家、家族からの相談を受けてきました。昨年度の虐待相談は約1700件で、地域の関係者と連携しながらチームで対応しました。虐待は、院内各科に関連する問題でした。家族には「あなたをより理解し、あなたと共に悩み、一緒にどうしたらよいのかを考えていきたい」という気持ちで向き合い相談を継続し、地域との支援体制を作りました。

親子の深い病理を知る度に、保健師が予防的視点で家族へ育児支援する母子保健や、地域における公衆衛生活動の大切さを改めて思い知る毎日でした。周産期からの虐待予防を調査研究してきましたが、今後は産婦人科・小児科等の医療機関と保健機関の更なる連携が重要と感じています。医療スタッフと家族との信頼関係を、地域での保健スタッフと家族への関係へと引き継ぎ、子育て支援の輪を作

って行ければと思います。
4月から県保健所に戻ることになった今、虐待対応からの学びを、今後の地域における公衆衛生活動に活かして行きたいと思っています。



同窓会によせて

第二看護科 平成13年度卒業 第30回生 加藤 真梨
愛知県がんセンター中央病院



総看の第二看護科を卒業し、4年経ちます。長かったような、あっという間だったような、そんな4年間だったように思います。

現在私は、愛知県がんセンター中央病院に勤務しています。学生時代から「卒業したらがんセンターで働きたい」と思っていました。実際に看護師となって働き始めると、現実はなかなか甘くなく就職してから今まで何回涙を流したかわかりません。そんな時、学生時代の友人と食事をして悩みを相談したり、お互いに励ましあったりしました。看護学

生時代の友人は年齢も経歴も様々でしたが、友人たちと過ごした2年間は今でも本当に大切な思い出となっています。

今は、手術室看護師として毎日手術を受ける患者様に対して看護を行っています。学生時代はどちらかといえば勉強熱心ではなかった私ですが、日々患者様と接しているうちに自分の知識のなさに気づき、今では学生時代とは別人のようになっています。

最近、毎日患者様と接し、看護を行うことが「楽しい」と感じるようになってきました。

看護師としてやっと4年が過ぎたところ、まだまだこれからです。今後も看護を行うことが楽しいと思えるよう努力をしていきたいと思っています。



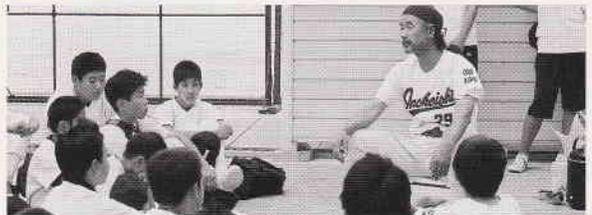
中学生の部活動に汗

臨床看護学第四科 昭和49年度卒業 第3回生 花岡 哲司
愛知県立城山病院

55歳になった。15年前からボランティアで中学校の部活動野球の指導をしている。ボランティアの良さはいろいろある。行政の手伝い、それに伴い行政の理解ができる。自分の知識、技術が生かせる。おかげで病院以外の社会を知ることができた。

今、世間では定年後の生き方が話題になっている。自分の知識、技術を生かしてボランティアを考える人も少なくない。私は幸い、その悩みがない。ただ、自由気ままにやってきたので、定年離婚されるおそれはある。先日、妻に55歳になったら、仕事を辞めたいと相談したが却下された。いつも私がそばにいるのは、かなりのストレスになるらしい。やむを得ず、60歳までは働くことにした。私は定年後、歩いて旅をしたいと思ってい

る。休日、時間がとれると、東海自然歩道に出かけ散歩をする。数年をかけて、ほとんどを歩いた。近頃は足も弱くなったが、5カ月かけて歩いた記事を読み、同じ思いの人がいるのに励まされる。妻には家事、育児で苦勞をかけているので、妻の勞をねぎらうことも考えたい。今の私は、いい家族と仲間恵まれた。沢山の幸福をもらいながら過ごしている。





母校は今

卒業生と在校生の交流

◆1年生と

平成16年度から、特別教育活動の一環として「看護を考える日」を設け、シンポジストに様々な場で活躍している卒業生を招いています。先輩看護師の「看護に対する想い」に触れ、自己の目標とする看護師像を考える機会としています。海外で活躍している方、認定看護師として専門知識を追究している方、助産師という立場から看護をしている方など、先輩看護師の活躍は、在校生の「看護師になりたい」という気持ちをいっそう高めてくださいます。

◆2年生と

2年生には、特別教育として「災害看護」の特別講義を、卒業生からうけています。昨年は当校を卒業された名古屋第二赤十字病院の井嶋副看護部長さんに講師を依頼しました。第33回生は、2005年日本国際博覧会に備えて愛知県危機対応訓練にも参加しました。事前にテーマ学習としても取り組み、特別講義は非常に効果的なものとなりました。2005年以降、2年生はテーマ学習として「災害看護」に取り組んでいます。

29年ぶりにユニフォームが変わる！ ～さわやかブル～



愛知県看護研修センターからのお知らせ

県内看護職の継続教育機関の役割を担っている当センターでは、今年度新たに「中堅看護職員研修会（精神看護、救急看護、認知症高齢者看護）」「育児休業看護職員復帰研修」「院内教育担当者研修」を実施する予定です。詳しくはホームページをご覧ください。お問い合わせください。



平成18年度 同窓会総会ご案内



日時：平成18年10月14日（土）
会場：名古屋国際会議場 会議室431・432
時間：13:00～15:30

★平成18年度から、総会の案内は会報に掲載されます。出席者は別紙はがきを切り取って郵送してください。

フェイスプランナー * * * * *
西奈まるか氏の講演とリハビリメイクの実演！
「元気になるメイク～顔が変われば心も変わる～」

● ● 講演会については、会費千円 ● ●

みなさんの参加をお待ちしています！

愛知県立総合看護専門学校のホームページアドレス
<http://www.pref.aichi.jp/imukokuho/sogo-kango/index.html>

編集後記

少しでも多くの卒業生に仲間たちの活躍を届けたいという気持ちで、今回の会報誌発行になりました。この発行を機に卒業生の情報交換のお役にすこしでもなれば幸いです。

発行にあたり事務局の先生方には大変お世話になり多大なご協力を頂いたことを感謝申し上げます。

編集委員 鈴木邦子 江上菊代 岩田タカ子 加藤宏子 前田洋子